

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

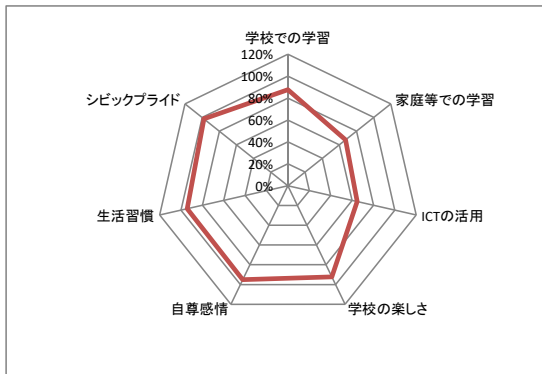
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、知識及び技能を問う内容のうち、「情報の扱い方に関する事項」は全国との差が小さく改善がみられる。しかし、「記述式」の問題形式の正答率が低く、課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、「図形」の領域では全国平均との差が小さくなっている。「データの活用」では課題がみられる。また、「短答式」の問題形式では正答率が低くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に90%以上の生徒が肯定的に回答しており、全国を上回っている。 ・「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」の質問におよ80%の生徒が肯定的に回答しており、全国を上回っている。 ・「授業や授業以外で、PC・タブレットなどのICT機器の活用していると回答した割合が低かった。今後も学校全体として、深い学びを行うためのツールとしてICTを積極的に活用するとともに、個に応じた支援や授業改善に取り組む必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

調査結果から、今後も継続して5教科を中心とした朝自習を実施するとともに、富野タイムや富野ノートが効果的な取り組みとなるよう工夫することで、基礎学力と学習習慣の定着を図っていく。また、個に応じた指導・支援を行い、誰もが「わかった・できた」を実感できる授業づくりを行い、生徒の主体的に取り組む姿勢を育成していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果から、気象・就寝時間など比較的規則正しい生活ができています。家庭での学習が定着させる、tetoruや通信等を活用して各家庭へ啓発していく。また、学校内外を問わず、ICT機器を活用できるよう取り組みを進めていく。